

年間第 24 主日 9 月 12 日 分かち合い

「あなたはメシアです」。イエスと起居を共にし、その心打つ言葉に魅かれ、癒しの業を繰り返し目撃してきたペトロは、仲間を代表して公言した。だれよりも、イエスを知り、イエスに愛されたものとして、憚ることなく、この方こそ、人々が待ち望んでいたメシアであると、告白したペトロだったが、イエスは「よし」とされなかった。ペトロの理解は、間違いではないが、きわめて、皮相なものと思われたのだろうか。イエスは、ペトロにきつく戒められた。「自分のことをだれにも話さないように」と。

人間の思いは、何と神の思いとかけ離れているだろうか。預言者イザヤは言う、「わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり、わたしの道はあなたたちの道と異なる」(イザヤ 55.8)と。イエスは、人々が全く想像もしないようなメシアの道について語り始められる。「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活することになっている」と。ペトロは、他の弟子たち、さらには、多くの人々と同じように、このメシアと信じた方が、こともあろうに、苦しみを受け、イスラエルの指導者たちから排斥され、拳句に命を落とすことになろうとは、とても考えられなかった。

そして、「ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた」とある。マタイは、もっとはきり言う、「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません」(マタイ 16.22)と。自分の思い、予想とは正反対の現実が降りかかって来るとき、わたしたちも、神をいさめ、自分の考えに引きこもうとしていないだろうか。イエスはペトロを叱って言われる、「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている」と。

先日、緊急事態宣言発令の最中、東京パラリンピックが静かに幕を開け、次第に盛り上がりを見せているとき、遠くアフガニスタンでは、20年におよぶ米軍の駐留が終わり、撤退時期が迫っていた。タリバンの政権復帰を恐れて、退避を望む人々で空港周辺が混乱を極めていた。力による脅威に対して、力で報復しようとする大国の思惑が見事に外れ、すべてが灰燼に帰そうとしていた。そんな中、一人の人間が始めた地味な活動が、人々に希望と夢を与えて実を結び始めていた。30年近くも前、中村哲医師が、本来の医療活動から身を転じ、砂漠に水路を設け、様々な作物を生み出す運動を始めた。人々は、武器ではなく、農機具を手にして乾いた大地を耕し、作物を栽培し、仕事を創出し、収入を得る道を歩み出した。大国の力による支配ではなく、小さな人間の発意が、和解と平和を生み出す力を芽生えさせていた。

預言者イザヤは、メシアの時代についてこう記す、「主は国々の争いを裁き、多くの民を集められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない」(イザヤ 2.4)と。メシアの時代が訪れるまで、まだ、多くの時間と、多くの献身が必要である。

イエスは、続けて、自分に従おうとするものに言われる、

「わたしの後に従いたいものは、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである」と。メシアの道は逆説の道である。人間の常識を捨てる勇氣、痛みを耐え忍ぶ強さ、そして、平和の君に対する信頼と愛が求められる。中世の霊性の大家は言う、「おまえが喜んで十字架をになうなら、十字架はおまえを背負い、おまえの望む終点におまえを運ぶであろう」(『キリストにならって』11 章)と。(S.T.)